タイ大洪水

川瀬白帆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
タイ大洪水

【Ｎコード】
Ｎ７３２６Ｘ

【作者名】
川瀬白帆

【あらすじ】
バンコクに避難警告発令！

ついに、バンコク市民の大脱出が始まりました。
我が家にも、確実に洪水が迫っています。

この先のストーリーがどうなるのか、もはや書いている私にもわかりません。
なにしろ、これはドキュメンタリーですから！

第一章　おばあさんとニシキヘビ（十月十四日、金曜日発）

緊急報告！『タイ、大洪水』

続真明・川瀬白帆（共著）

私の名は、続真明（ツヅキ・マサアキ）。
♂独身。１９９７年からバンコクで暮らしています。
年齢は……まぁ、そろそろ白髪が気になりだした頃とだけ記しておきます。

日本企業が被害を受けたこともあって、タイの大洪水が日本でもニュースになっていると聞き、それならば私がバンコクから実情を緊急報告しようと思い立ち、ペンを取りました。
今後は大洪水に限らず、タイ在住でなければ書けない話題を取り上げて書いていこうと思っているので、ぜひお付き合いください。

第一章　おばあさんとニシキヘビ　（十月十四日、金曜日発）

昨日はすごい雨が降り、今日もさっきまで降っていた。
日本人には想像もつかないような、滝のような雨……いや、近頃は地球規模の異常気象の影響か、日本でもスコールもどきの雨が降るようですが、ともかく、ノアの方舟を彷彿とさせる大雨が、例年なら雨季が終わり、とっくに乾季を迎えたはずの今月になっても降り続いています。

どこのダムも限界を越え、水を放出し、田んぼも畑も水浸し。バ

ンコクは水没の危機に瀕しています。正確に言えば、市内もチャオプラヤー川と細い運河の周辺では、すでに浸水が始まっている。

私は、マンションの九階で暮らしているから、自宅が水没する心配はない。しかし、一階部分が水に浸かれば、電気がやられ、エレベーターが止まり、水道も出なくなる。ガスはプロパンだから大丈夫かもしれないけれど、トイレが使えなければ生活できない。

そうなったら、カンボジアのカジノへ遠征して羽をのばしてこようかと、ギャンブル仲間と相談したところです。最近ずっと働きづめだったから、いい休暇になるだろう。

バンコクが浸水するかどうかは、大潮と重なるこれから週末にかけてが山場だという。でも、私は月曜日に通訳の仕事があるから動きがとれません。警察がらみのややこしい仕事なので、キャンセルできないのです。

タイの洪水は、日本の洪水ほど激しくない。水がどっと押し寄せるのではなく、気が付いたら水がひたひたと足元まできていたという感じ。深刻さで津波とは比較にならないから、恐怖感は薄く、呑気なもの。

スワンナプーム空港までは、高架橋の高速道路が通じているから、洪水でもなんとか行けるだろう。でも今日の午後から、欠航が出始めたようだ。

うちの近所のデパートの横から、国境を越えてカンボジアへ行くバスが出ているから、それに乗ってもいい。

ＢＴＳ（モノレール）は、水がきても大丈夫。

地下鉄は、入り口を地盤から二メートル上げて作ってある。いったん階段を上がってから降りる構造になっているから、一時的に止まることはあっても大丈夫だろう。

よく調べると、バンコクの洪水は二十年に一回ぐらい起こっている。二十五年ぐらい前にこの辺が冠水して、舟で避難している様子を撮った写真を見たことがあります。

自然災害とはいえ、これは政府の怠慢だ。土嚢を積んだり、ポンプで水を川に流したり、その場しのぎの対策はとっても、根本的な対策がとれない。

スーパーやコンビニから、水とカップラーメンが完全に消えた。なにしろ政府が買いだめを奨励しているのだ。ニュースでも、アナウンサーどうしが「カップラーメンをもう買いましたか？」などと、挨拶がわりに話している。

生鮮食料品も不足して、レストランは営業しているけれど、付け合わせの野菜の量が極端に減り、便乗値上げをしている店もある。

こういう時、タイ人はまず自分のことを第一に考える。他人のことは考えない。だから、不足した品物を個数制限して販売するという発想はないし、金持ちはごっそり買い込んでいく。

私も、米（日本米）はじゅうぶんにあるけれど、ミネラルウォーターは１．５Ｌのペットボトル七本しかストックがない。それしか買えなかったのです。ジュース類はいつも通り売っているから、水分が補給できなくなる心配はないけれど、水とカップラーメンの棚だけ空になったコンビニの風景は異様です。

保存食は色々あるのに、なぜカップラーメンなのか、私にもよくわかりません。安藤百福さんがこの光景を見たらどう思うか、聞いてみたい気もする。

今年の雨季は、降雨量が例年より格段に多かった。一か月ぐらい前から、川と運河の水位が徐々に上がりだしました。

特に特徴的だったのは、各地で土砂崩れが多発した。それは森林の伐採、自然破壊が進んだからだと問題視された。

雨はさらに降り続き、乾季に入ったはずの今月になってモンスー

ンが発生し、東南アジア一帯が大打撃を受けた。フィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、インドネシア……タイより被害が深刻な国もある。

対策をとらなければと、あわててインラック首相が被災地の視察をしたけれど、政策的なことは何もできませんでした。インラックには、掛け声をかけても皆が従うほどの存在感がなく、そのままズルズルと現在までできてしまいました。

ただし彼女は、被災者たちに救援物資の入った袋をくばるパフォーマンスだけは抜け目なくやっています。重要な政策会議をキャンセルしてまで、頻繁に被災地に出向き、その様子を毎回バッチリ報道させています。

本来なら、そういった活動は王族の勤めであり（実際政府とは別に、王族は慈善活動を行っている）、一国の首相には、もっと重要な役どころがあるはずと私は思いましたが……。

気が付いた時には、アユタヤのあたりで、もうあと五十センチで水が堤防を越えますと報道される事態になっていた。

タイは、海から百キロ以上内陸のアユタヤでさえ、海抜が一メートルとか二メートルとかしかない。大潮の時には、海水がアユタヤのあたりまでチャオプラヤー川を遡るという。

急いで一メートルぐらい土嚢を積み、いったんは水が止まったように見えた。ところが翌日の新聞を見たら、アユタヤの有名な遺跡群がどっぷり水に浸かっていた。ひどいところは家の二階部分まで、三メートルぐらい冠水している。重要な文化財が保管されているお寺がどうなったか、心配です。

死者は今までのところ、二百五十八人。その多くは土砂崩れによるものでしょう。

アユタヤには、日本の工場が多数進出している工業団地がある。

そこの惨状は、日本でも報道されている通り。ホンダなどは、年間の収支を下方修正しなければならないほどの事態となりました。
政府の対策として、工業団地の周りに二メートルの壁を作ることになったけれど、もちろんそれには何年もかかります。

当初はなんとかしのげる、浸水には至らないという噂もあったが、結局工場の従業員も家族も避難した。洪水が多いとわかり切っている国で、なぜこんな事態となったのか？
おそらく工場を作る際に、またいつもの調子でタイ人が、全く根拠のない自信を持って、絶対大丈夫と言い張ったのでしょう。
経済はいたって順調だけど、自然災害と政情不安においてリスクのある国。日本の企業が進出する際には、それを覚悟する必要があります。
アユタヤを水没させた洪水が、下流にあるバンコクに向かって今現在押し寄せつつある。この先どうなるのか、私にもわかりません。

タイのテレビを見ていると、こんな惨状の中でも、楽天的で、お気楽極楽なタイ人を象徴するようなニュースが流れています。今回は、そんな日本では考えられない、洪水に関連したユニークなエピソードをいくつか紹介しましょう。

アユタヤのある小学校での話。ニュースで、今日から水泳教室が始まりましたとやっていた。
洪水で校舎が水没し、授業ができなくなった。先生方は開き直ってしまったのか、突然水泳教室をやると言いだしたのです。
といっても、もともとタイの学校にプールはない。なんと洪水の中で、教師が子供たちに水泳を教えていました！
レポーターが子供たちにマイクを向け、「どうですか？」と聞いたら、みんな「楽しい！」と答えました。こういうやり方もあるのかと、関心するやらあきれるやら……。

洪水の水は汚い。汚水や動物の死骸、ここは熱帯だし、水が引いてからも感染症が心配される。わけのわからない寄生虫もいる。そんな水の中で、子供たちを泳がせていいのだろうか？

そういえば、洪水の影響でヒル大発生のニュースも流れています。タイではみんな、半ズボンにサンダル履きです。移動するために、洪水の中を歩いて岸に上がると、脚に無数のヒルが張り付いていることがある。中には十センチぐらいの巨大なヒルもいて、映像を見ただけで気分が悪くなりました。

また、冠水した街の中を二、三人のファラン（西洋人）が流されていく映像がありました。

彼らはそれぞれ海水浴用のエアマットに寝そべり、片手にビールを持ち、カメラに向かってビールを掲げ、乾杯のポーズをとり、ニコニコしながら、そのままプカプカと通りを流されて行きました。

そして、極めつけの話がこれです。このニュースは、タイではずいぶん話題になりました。

深夜、洪水で水没した村をパトロールしている警察の舟に同行したテレビクルーが、偶然水面に人影を発見して、ライトを当てたら、大きな荷物を浮き袋のようにしょっている、おばあさんの顔が闇に浮かびあがった。

驚いたクルーが、「なにやってるんですかー？」と声をかけると、おばあさんは「親戚の家に行くところです」と答えました。

「舟に乗ってください」と言って手をさし伸べると、「このまま自分の脚で歩いていくからいい」となぜかおばあさんは助けを拒否して、水中を泳ぐように歩きながら去って行こうとした。

ほっておいたら危険だと判断したクルーは、慌てて追いかけておばあさんを舟に乗せ、事情を尋ねました。

実はそのおばあさん、足腰を痛めて、長いこと寝たきりの生活をおくっていたというのです。
独り暮らしで、どこにも出かけることができず、家にこもりっぱなしだったそうです。ところが、洪水の水が家に入ってきたら浮力で体が浮き、自由に動けるようになりました。

久しぶりに歩くことができたおばあさんは、すっかり嬉しくなって、ちょっと離れた村にある親戚の家を訪ねることにしました。寝たきりになって以来、久しく会えずにいたのです。
おみやげや生活道具などをまとめ、背中にしょったらちょうど浮き輪がわりになりました。水かさも肩ぐらいだったので、水中をスイスイ歩きながらここまで来たということでした。
おばあさん、久しぶりに歩けたことがよほど嬉しかったのでしょう。元気そうで、終始にこやかにインタビューに答えていました。クルーはそのままおばあさんを舟に乗せ、目的地の親戚宅へ送り届けてあげました。

これだけでも仰天ストーリーですが、この話にはちゃんとオチまでついていました。
親戚の家に着いたおばあさんが、しょってきた荷物をひも解くと、大きなカバンの中から、なんと巨大なニシキヘビが這い出てきたのです。おばあさんが水中を歩いている間に、入り込んだらしい。
現場は大パニック！　この一部始終が、テレビカメラに収められていました。

今回の水害では、ニシキヘビ関連のニュースも多かった。体長三メートルのニシキヘビが捕獲されましたなどと、様々な場所で目撃談が報告されました。
またワニ園のワニが三百匹も逃げ出して、パニックになりました。

七割ぐらいは捕獲されたけど、残りはまだその辺をウロウロしていて、捕まえた人は懸賞金をもらえるそうです。

……続く。

第二章　バンコクに避難警告発令！（十月二十二日、未明発）

こちらは、大変な事態になってしまいました！
とうとう来るべき時が来てしまったのです。
第一章を読んだ方は、おやっと思われたかもしれません。自宅のあるバンコクに洪水が迫っているというのに、なんだか緊迫感のないレポートだなぁと……。

そうです、その通りです。
正直に本音を申し上げます。第一章を書いた時点では、本当にバンコクまで洪水が来ることはまずないだろうと、高をくくっていました。
なぜなら、バンコクはタイの首都です。政府も最終防衛ラインとして、バンコクだけは守ろうと、必死に対策を尽くしてきました。水門を開け閉めし、うまく水流をコントロールして、バンコクを迂回させて水を流す計画でした。
タイの洪水マップが公開されていますが、それを見ると、まるでバンコクを取り囲むように洪水が広がっています。つまりこれは、政府の計算通りにことが運んでいるというあかしでした。

ところが、さっきテレビニュースで、バンコクより上流部の洪水地帯から生中継をしていたのですが、レポーターがこんな発言をしました！
「今まで、洪水で大変だった地区の水は、引き始めました。なぜなら、すべての水門を開けて、バンコク方面に水を流しているからです」

どひゃ〜！
寝耳に水？とはこのことです。

いったいなぜ、こんな事態になったのか？

公式な理由としては、ついさっき洪水対策委員会というのができて、協議した結果、あまりにも押し寄せてくる水の量が多いから、このまま水門を閉め続けても無駄だ。それどころか、堤防の決壊や水門の破壊という最悪の結果を招くおそれがある。それよりも、水門を開放した方がいいという結論に達し、即実行されたのです。

裏事情として、住民の怒りもあげられるかもしれません。

バンコクに水が来ないように上流の水門を閉じれば、結局いつまでたってもその地域の水は引きません。

なんで俺たちがバンコクを救うために犠牲にならなければならないんだと、怒った一部の住民たちが、堤防を破壊し始めたのです。

おかげで、上流の洪水地帯の水は引き始めました。当たり前です、たまっていた水はバンコクへ向かって流れているのですから。

タイが現在どれほどひどい状況に陥っているか、日本の皆さんに正確に伝わっているでしょうか？

今ちょうど、洪水対策委員会の人がテレビで発表をしました。なんと現時点で、タイ国土の三分の一以上が、水に沈んだそうです。

全国土の三分の一強！　洪水はまだ広がり続けています。しかも、被害は人口が密集している地域に集中しています。

対策委員の人が、航空写真を見せながら説明していますが……これはひどい！　水、水、水……水しか写っていません！

死者数こそ津波の被害とは比較になりませんが、これではタイの経済的損失は計り知れません。

例えば、日本で洪水があれば、床上浸水何棟とかという発表がありますが、国土の三分の一が水没したら、あまりにも被害が大きす

ぎて、そんな計算は不可能です。したがって、ニュースで被害状況の数字は、死者数しか発表されていません。

外資系の、重要な工業団地はほぼ全滅！　タイに二つある国際空港のうち、ドンムアン空港はすでに閉鎖され、周辺住民のための避難所になっています。

新空港のスワンナプームはまだ機能していますが、水の包囲網がどんどん狭まっている状態です。もしもこのスワンナプーム空港が閉鎖されたら、タイは国際社会から孤立してしまいます！

今日になって、バンコクでは、ついに市民の大脱出が始まりました。

長距離バスのバス停には、ものすごい数の人が殺到していました。うちの近所のデパートに隣接している、長距離マイクロバスの乗り場も大混雑！

しかし長距離と言っても、目的地まで行くのに、水を避けるためえらい遠回りをしなければならなかったり、目的地のそばで折り返したり、故郷に帰るにもさぞかし苦労を強いられることでしょう。

閉店する店も、増える一方です。

私が住んでいるマンションでは、急遽突貫工事が始まりました。このマンションの敷地に水が入ってこないように、壁を造り始めたのです。

マンションの正門側は、入ってから少し上がり坂になって建物が建っているので大丈夫。でも裏門は、高低差がほとんどないから、そちら側に壁を造っています。

家を建てる時の基礎工事に使うコンクリートの杭を積み重ね、モルタルで継ぎ目を埋めて補強して、六十センチぐらいの高さの塀をめぐらせている。

私もそれを見て、もう大丈夫だと一安心できました。

周りの家を見ても、みんな煉瓦を積み上げてモルタルを塗り、ちゃんとした防水壁を造っています。大雨が降るといつも水がたまる家では、普段からそういった壁を造って、防水対策をしていますから、これはタイ人の生活の知恵なのでしょう。

他にも、今日になって気付いたことがあります。

水道水が、ものすごくまずくなりました。

もちろん、私はタイの水道水は絶対に飲みません。しかし、歯を磨く時は水道水を使っています。それで、口をゆすぐためにコップの水を口に入れた瞬間、吐き出しました。

腐っているんじゃないかと思えるぐらい、ひどい味と臭い！

私は、慌ててミネラルウォーターで口をゆすぎ直しました。

飲食店をやっている友人からも、驚くべき事実を聞かされました。彼の店で、皿洗いをしていた複数の店員の手が腫れあがり、病院に行ったというのです。

もちろん、水道水を直接飲用や調理に使っているわけではないので、その点はご留意ください。

調べたら、水がどんどん流れ込んでくるため、浄水場の浄化設備が間に合わず、十分な浄化をしないまま流しているせいらしい。

思うに、バンコクの浄水場に入ってくる水は、工業団地や様々なところを通ってきた水で、重金属あり、汚水あり、農薬あり、油あり……汚染されてしまっている可能性がある。

実は私は、過去に日本の某有名浄水器メーカーから、仕事を受けたことがあります。

タイに進出するため、タイの水道や浄水場のシステムをリサーチしてくれと、依頼を受けたのです。それで私には、タイの浄水場の

知識が少しばかりあります。浄水場で一応はろ過するし、薬品で処理もする。しかし、大したことはやっていないので、普通の状態でも臭い。それが、今回いっそうひどくなったのです。

その時の経験から、タイの水道水を本気で浄化しようと思ったら、日本でも今、話題になっている、放射能まで除去できるという、強力な逆浸透圧方式を使うしかないということがわかりました。さらに、その後紫外線を当てるＵＶ消毒を行えば、完璧です。

今はこっちの量販店で、逆浸透圧の浄水器を安売りしていて、それがバカ売れしています。またちゃんとした飲食店では、強力な浄水器を使っているから安心です。

日本のみなさん、あまり神経質にならないでタイに来てください。

うちにも逆浸透圧浄水器をつけようかなとは思ったのですが、口をゆすぐのと、手を洗ったりシャワーを浴びたりするぐらいしか使わないので、躊躇していました。

ところで、今日私は、仕事の打ち合わせのために、市内のオンヌットというところへ行ってきました。そのあたりはまだ平穏でした。

近くに大型ショッピングセンターがあるので、１．５Ｌの水、三本ぐらいなら持って帰れるかなと考えて帰りに寄ったら、水がきれいになくなっていました。

こんな大きな店までと驚きましたが、とりあえずオイシイ（タイ語でも発音そのまま）というメーカーが出している日本茶を六本買ってきました。

打ち合わせではクライアント（注文主）から、このままだと打ち合わせとかできなくなるから、ともかくバンコクに水が押し寄せる前に終わらせてくれと、なぜか洪水が来る日を締め切りにされてし

まいました。
全くタイ人の考えていることは、よく理解できません。
あと気がついたことは、今日あたりから、街の人たちがみんなそわそわし始めました。
知人と道で会えば立ち話、知らない人どうしでも、一生懸命洪水のことを話したり、買い物のレジで並んだりすると、店員まで加わって話に花が咲く。
これらは、タイ人の特徴です。
こういう現象、日本人でもあるとは思うけれど、タイ人は特に顕著。こうして他人どうしが会話することで、情報交換をしたり、不安をやわらげる効果があるのです。

蛇足ですが、バンコクの街を徘徊している野良犬までが、私の目にはそわそわしているように見受けられました。

それにしても、今見ているテレビに映し出されている洪水の映像はひどい。
犬の死骸は浮いているわ、水牛の死骸が流されてくるわ、もうなんでもあり。一方、その運河で釣りをしている人もいる。
なんと、投網をしている人まで！
近くの養魚場が水で流されたから、魚がたくさん捕れるんだとか……。

こういった具合に、追い詰められた時の受け流し方がタイ人はうまい。無理して頑張らない！
逆になじんでしまって、それがいい。

あ、今、洪水対策委員会から、再び発表がありました。
避難警告……防備要請？

とうとう出たか！
首都圏の人間、全員に向けて出している。
できるだけ物を……高い場所に……上げてください。

こうなったら国家非常事態宣言を出して、軍隊を動きやすくして救助に当たった方がいいという意見が多いけど、タクシンの妹であるインラック首相は、それをかたくなにこばんでいる模様。
それは、過去のいきさつを考えれば当然だ。なにしろ軍隊を解き放てば、自分たちが駆逐される恐れがあるのだから。

ああっ、今やっている映像……うちのマンションと同じように、洪水対策で塀を造った家まで浸水している！
なんで……？
そうか！　マンホール……例え防水壁で家を囲っても、下水管が外の配管とつながっているから、そこから水が逆流してきてしまったんだ！

じゃあ、このマンションもダメじゃん！
どうしよう、仕事をほっぽり出して、急いで避難した方がいいか？
それとも、いっそのこと、洪水の中から実況レポートをしようか？

うちのすぐ近所に、アヌサワリーと呼ばれる戦勝記念塔があります。その周りを歩道橋が一周しているので、洪水の様子を撮影するには絶好の撮影ポイントです。
百年前に撮られたバンコク大洪水の写真と同じ場所から撮影して、比べてみるのも面白いかも。
でも、ネットがやられたらアップすることができません。

たとえ洪水がおさまって、水の流入が止まっても、水がひくまでに一カ月はかかるだろうと対策委員が話しています。

こうして、タイの洪水の恐怖は、じわじわ、ゆっくりと、しかし確実に迫ってきます。

私は、果たして次の更新ができるのでしょうか？
もしかしたら、次は洪水の中から送ることになるかもしれません。

……続く　予定

第三章　日本大使館からのお知らせ（十月二十五日、火曜日発）

■□

タイ在留邦人の皆様へ

【大使館からのお知らせ】

緊急一斉メール

■□

バンコク都における降雨・洪水被害に関するインラック首相の声明

（２０１１年１０月２５日現在）

２５日、２０時半より、インラック首相は、バンコク都における洪水被害に関して、テレビで声明を発表しました。（以下は、当館館員がインラック首相の声明を聞き取ったものの骨子です。声明の正確な内容につきましては、タイ政府から正式な声明文が公表され次第、改めて確認いたします。）

１．タイの北部から中央部を通って大きな水の固まりが流れてきている。水の流れのエネルギーは受け止められる能力より大きいため、水はバンコクの内部と外部に侵入する可能性あり。

２．洪水による水位は、水をどれだけコントロールできるかによって違ってくる。また、土地の高低により一定ではない。

３．（バンコク）西部では北から流れてきた水は、ノンタブリー、バンプラットに影響を与えている。バンコク都は堤防を強化してい

るが、水は受け止められる能力を超えており、トンブリ及び周辺地域で平均して５０センチの洪水となっている。

４．（バンコク）北部では、流れ込む水は運河の戸を閉めホックワー運河から排出し、バンコクの中心を流れないよう対処しており、うまくいけば洪水による水位は５０センチメートルを越えない。

５．（バンコク）東部では、ラピーパット運河やクロンセープ運河を使って海に流すが、当初の計画通り進んでも、この地域は他地域より低いことから、洪水の水位は１～１．５メートルが見込まれる。

６．最悪のケースとして、堤防が崩れる、又は、水位が予想を超えるような場合、バンコクは場所によって高低が異なることから、洪水の水位は１０センチメートル～１．５メートルとなると見込まれる。政府は影響が最小限となるように努力するが、本日より国民も万一に備えて財産を高い場所に移して欲しい。

７．水位が上昇する２７～３１日を臨時の休日とした。他方、洪水対策従事者は引き続き協力して欲しい。政府は食料品や生活必需品の確保、水や電気の質の確保に最大限取り組む。

８．国民はパニックになってはならないが、同時に万一に備えて欲しい。この危機を乗り越えられると確信している。

第四章　嵐の前の静けさ・前編（十月二十六日、水曜日発）

その時私は、仕事の打ち合わせのため外出した先で、昼飯を食べていました。

メニューこそ変わっていませんが、流通事情の悪化で、食堂の野菜の量は、「えっ」と思うほど減っていました。おまけに、どの店も五バーツ（約十五円）は値上げしています。

市場に行っても、食料品はめちゃくちゃ値段が上がっていて、もはや生鮮食品だけではなく、日用品から化粧品まで、すべての物が不足しています。

デパートやスーパーも営業を続けているけれど、ともかく品物が入ってこない。ましてや、トイレットペーパーやティッシュなど、影も形もありません。

食堂のテレビで、ニュースを見ていた私は、アナウンサーの言葉に絶句しました。

「本日（二十五日）政府は、今月二十七日から三十一日まで、公的な業務を全て停止して、休日とすることを発表しました」

つまり、大潮と重なり洪水が懸念される期間、すべての公共施設……役所、学校、郵便局、国立と名のつく機関などは、すべて休むという決定がなされたのです。

もちろん、洪水対策に従事する者は除くという条件付きではあるけれど、これはおかしい。むしろこんな時こそ、寝食を忘れて公務に励むべきなのではないか？　そうでなければ、いったいなんのための公務員なんだ……と思うのは、私だけでしょうか？

さすがタイ人の考えることは、日本人の理解できる範囲を超えています。

このニュースを聞いて動揺したのか、バンコク脱出を焦った人々が、ドンムアン空港に殺到しました。水のない場所であればどこでもいい、きっとそんな気持ちだったのでしょう。新空港ができてから、ドンムアン空港は国内便専用空港に生まれ変わっていました。

ところがすでにその時、空港敷地に水が浸入し始めて、滑走路が冠水する恐れがでてきたため、全ての便が土壇場でキャンセルされるという悲劇に見舞われたのです。直後に、政府は十一月一日まで、ドンムアン空港を閉鎖すると発表しました。

私は、避難所になっていたドンムアン空港は、とっくに機能を停止していると思い込んでいたので、余計憤りをおぼえました。どう考えても、安全確保が難しい状況でギリギリまで発着を続けていた空港の姿勢も、発着をキャンセルしてから閉鎖を決定した政府の対応も、後手に回りすぎです。

この決定を受けて失望したのは、脱出希望者だけではありません。空港に避難していた被災者たちも同様です。

テレビ中継のインタビューでは、赤ん坊を抱いた若い母親が、「この子を連れて、やっと避難してきたのに……」と、涙声で訴えています。

群衆の失意と怒りの声を伝えた後、「空港に隣接する道路は、すでに八十センチも冠水しています」と、現地レポーターが結んで、スタジオに画面が切り替わりました。

すると次の瞬間、あろうことかメインキャスターがニコッと微笑んで言いました！

「こんな、暗い話題ばかりではありません。お子さんや病人を避難させるためのボートが不足している現在、各地でユニークな手作りボートが製作されています」

そして画面では、ペットボトルを貼りあわせて作った舟、自動車

に無数のタイヤチューブをくっつけた水陸両用車？　裏返したテーブルに発砲スチロールを貼り付けた舟？　など、身近な物を組み合わせて作った独創的な自作ボートが次々と紹介されていきました。
見てくれはともかく、本人たちは大まじめ。ボートには老人や病人を乗せていて、一応避難ボートの役目を果たしているようです。

『さすがタイ人、やってくれる……』
直前のニュースとのあまりのギャップに、私は椅子から転げ落ちそうになりました。
そういえば、日本の笑っていいともみたいに、お昼に放送しているおバカなお笑いバラエティー番組も、普段と変わらず放送しています。
こんな緊急時でもめげない、タイ人のたくましさにあきれるやら感心するやら。

食べ終わる頃になって、ハッと気づきました。そういえば、ドンムアン空港って、うちから三、四十キロしか離れてない！
わかっていたこととはいえ、本当に目の前に水が迫っているという深刻さを、しみじみ実感しました。

洪水がそれほど近づいているのに、なぜ一気に押し寄せて来ないのか、日本人の目から見ると奇異に感じられるかもしれません。それには、タイの地形が起因しています。
タイの地形は、起伏のない平らな土地が、ただひたすら広がっています。そこで起こる洪水とは……例えば、プラスチックの下敷きに落とした水滴を想像してみて下さい。
水は一定の範囲まで広がると、それ以上広がることなく、下敷きに張り付きます。そして下敷きをほんのわずか傾けると、水はまるでアメーバか何かの生物みたいに、ゆっくりと移動を始めます。こんな感じで、巨大な水の塊がバンコクを目指して、じわじわと移動

しているのです。

食堂から出ると、空は雲一つない晴天でした。通り雨が短時間降ったことを除けば、もう一週間ぐらい晴れの日が続き、雨季は終わった感があります。

こんなに天気がいいのに、こんなに暑いのに、本当にここに洪水が来るのだろうか？

今のニュースは、実は別の国の出来事なんじゃないかと疑いたくなるような、いつもと変わらぬ見慣れた街の風景です。

ただ、人影がまばらなことを除けば……。

あと、車の数も極端に減りました。

やっぱり違う。

いつもとは何かが違う。

この、全身が総毛立つような、ざわざわした不安感は何なのだろう？

上空をヘリコプターが、バラバラと爆音を轟かせて横切って行きました。

ヘリが遠ざかると、また不気味な静けさが戻ってきました。

そうだ、静けさ……この静けさだ！

前にも、これと同じ静けさを経験したことがある。

おとしにバンコクで発生した赤シャツの内乱。その銃撃戦の合間の不気味な沈黙。そうだ、洪水騒動が一段落したら、このエッセイの中で、あの恐怖の体験についても触れなければならない……私はそう心に決めました。

もしかしたら、私は逃げ遅れてしまったのかもしれない？

もう飛行機は予約で満杯。バスだって、いつ洪水でストップする

かわからない。かと言って、今さらあの長蛇の列に並んで、普段の何倍も時間をかけて、バスで国境を越えようという気は起こらない。

今まで、いくらだって逃げるチャンスがあったのに、みすみす逃してしまった……。

この時、初めて私は、自分がこの災害の当事者となったことを自覚しました。

第四章　嵐の前の静けさ・後篇（十月二十六日、水曜日発）

自宅の近所に、私がよく行くオープンカフェがあります。夕食が終わったあと、夕涼みを兼ねて歩道に置かれた椅子に座り、街の喧騒を眺めながら、ゆったりとカプチーノやカフェラテを飲む。私にとって、至福のひと時です。

すると、必ず同じ猫が現れて、ほど近い路上に座り、なぜかじっと私の目を見つめてから去って行くようになりました。

色はグレー。正確に言うと、元は白猫だと思うけれど、薄汚れていてグレーにしか見えない。明らかに野良猫です。

それが毎回のことなので、私は不思議に思って、色々理由を考えてみました。

私は餌をあげたことは一度もないので、餌をねだっているとは考えられません。タイ人はやさしい人が多くて、野良猫や野良犬によく餌をあげるから、そもそも餌に不自由していません。

じゃあ、なぜなのか？　もしかしたら、あいつは私のことを自分と同類と思っているのかもしれない？　だんだんそんな気がしてきました。

猫の行動を見ていると、夜になると街を徘徊して、同類と出会うと立ち止まり、さりげなく挨拶を交わしあっている……それと同じことです。

野良猫に同類と思われるのは、迷惑な話ではあるけれど、毎晩のように顔を突き合わせているうちに、私もこの薄汚れた輩にシンパシーを感じてきて、得意な猫の鳴きまねを披露したりしました。すると、猫氏はピクッと肩を震わせて応えました。

この晩も、私はオープンカフェに陣取りました。しかし、猫氏は現れなかった。

そういえば、二、三日前から姿を見ていない。考えてみれば、その猫だけではない！　他の野良猫も、野良犬の姿も見かけなくなった。

タイの街中には、野良犬がゴロゴロいます。仏教国で、慈悲深い国民性もあって、動物を大切にするので、日本と違って、野良犬や野良猫にとっては天国です。

もちろん、その弊害もあります。バンコクだけで、なんと年に十人以上の人が、犬に噛まれて狂犬病で亡くなっているのです。私自信、街を歩いていて、あまりの犬の多さに時々恐怖を覚えます。

それでも、野良犬を駆除しようという議論にならないのが、タイがタイたるゆえんでしょう。

カフェのあるあたりでも、各ソイ（路地）ごとに、二、三匹の野良犬がいて、住民や屋台の店主などから、餌をもらって生活しています。同じ顔ぶれだから、ソイを歩いていると、野良犬とまで顔なじみになっている心地がします。

この晩、私はカフェを出てから、ちょっと確かめるために、二、三本のソイを巡ってみたのですが、やはり、犬も猫も一匹もいませんでした。

とうとう街から、犬と猫が消えた！　この事実に、私は少なからずショックを受けました。

ここで、今までご紹介できなかった、タイの洪水に関連したこぼれ話をいくつかご披露いたしましょう。

農業国タイには、伝統的な雨乞いの祈りがあり、田植えの時期や日照りの時には盛んに催されます。それが今回の大雨に際して、逆に雨を止める祈りというのが各地で実施され、ニュースになりました。

タイでは、何かあるとすぐに歌を作る傾向があります。プーケットの津波の時にも、日本で東北関東大震災が起こった時にも、すぐに応援ソングが作られました。

今回の洪水も、もうすでに歌になっています。タイトルは、そのままズバリ『洪水』

タイの有名歌手が何人も参加している、いわゆるチャリティーソングです。

タイのテレビの天気予報にも、日本と同じように、お天気おねえさんが出演します。基本的には、日本のお天気コーナーに近いのですが、大きく異なる点もあります。

私がよく見る番組では、お天気おねえさんが、毎回コスプレをしてスタジオに登場します。

例えば、ある回は合羽を着て自転車に乗り、「雨に気をつけましょう」と言いながら登場しました。画面には、雨のアニメが合成されています。

またある回は、農民の格好をして、田植えをする演技をしながら出てきました。

今回の洪水騒ぎの渦中には、作り物の舟をこぎながら登場したこともあります。

このお天気コーナーは大人気で、お天気おねえさんが、次はどんなコスプレで登場して楽しませてくれるのだろうかと、みんな興味深々で見ています。

もう雨には飽き飽きしましたが、大雨のおかげで一つだけいいことがありました。
空気がよく冷えて、澄んでいる気がします。おかげで、よく眠れるのです。
熱帯のタイでは、普段なら暑くて朝になると自然に目が覚めるのですが、この前起きたら、時計がもう午後になっていたことがあって驚きました。

第一章で、月曜日に通訳の仕事があると書きましたが、警察がらみと書いたから、いったいどんな仕事か気になった方もいるでしょう。
個人情報の問題もあって、詳しく書くわけにはいきませんが、ちょっとだけ内容と結果に触れておこうと思います。

タイは現在、経済成長で沸いています。工業団地が次々と建設され、世界中から優良企業が誘致されています。首都の主な交通手段である、ＢＴＳ（モノレール）や、地下鉄は、次々と延伸計画が発表され、かつての日本のバブルを彷彿させる様相を呈しています。

そうなれば、当然怪しげな紳士たちが暗躍します。
遅れて来たタイのバブル、日本からも、甘い蜜の匂いに吸い寄せられ、タイで投資をしたり、移住して事業を始めようとする人たちが、引きも切らずです。日本のバブルでひと財産作った人もいれば、ひと時の栄華の後にすべてを失い、タイでの再起に賭けて来た人もいます。
聞いた話では、成功も失敗も含めて、日本での経験がノウハウとなって蓄積しているので、タイでの事業はすごくやり易いそうです。

しかし、あくまでもハイリスクハイリターンの世界の話。今回の洪水を見ても明らかなように、日本にはない落とし穴がタイには存

在します。くれぐれも、これを読んで我も……なんて考えはお捨てなさい。

とは言え、タイに来た日本人も含めて、タイのお金持ちは日本とは桁違いのお金持ちだと言えます。それには、税制などの面で金持ちが優遇されている、タイ特有の事情も関係しています。

前置きが長くなってしまいましたが、ようするに今回通訳を頼まれた相手は、そんな日本人の一人だったのです。タイに移住し、タイ人女性と結婚、バンコクに不動産を多数所有している、典型的なバブル紳士です。

金持ちであれば、他人に自分が金持ちであることを見せないようにすればいいものを、その人は、自分が金持ちであることを公言するような人物でした。それがまずかったのです。

悪意を持って近づいてきたある人物の罠にはまり、事件に巻き込まれそうになって、私に助けを求めてきました。

手口としては、麻薬がらみのよくあるパターンで、彼は全くの無実です。

袖の下がきくタイでは、金さえあればほとんどのことが解決できますが、私はお勧めしません。安易に金を払えば、後々もっと面倒なことになる恐れがあるし、なによりも悪癖の連鎖が断ち切れなくなるからです。それはタイ人にとっても、タイで暮らす日本人にとってもマイナスです。

そこで私は、まず私の知り合いで、正義感に燃える清廉潔白の弁護士を彼に紹介しました。そして直談判をしに、警察署に乗り込んだのです。

警察は、相変わらずひどい対応ぶりでした。詳しくは話せません

が、色々あって、つくづくタイの警察はひどいと思いました。
でも、こんな警察に市民が守られていることも事実なのです。

……続く。

第五章　大潮前夜（十月二十八日、金曜日発）

今日は街を歩いていて、一つ新たな発見をしました。

前に、各家々で、防水壁を造り始めたというお話をしましたね。家の敷地に水が入ってこないように、モルタルや煉瓦で壁を築き始めたと。

それがおかしなことに、最初に誰かが壁を造ると、次に造り始める家は、必ず最初の家よりもちょっとだけ高く造ります。すると、次に造り始めた家は、それよりもさらに高く造り始める。後から造る家ほど、壁の高さが高くなっていくのです。

こうして一巡して、その区域の壁が全部造り終わったら、今度はその中の裕福そうな家が、なんと壁の外側に化粧タイルをはり始めました！

これは床などにはる、きれいな模様の入ったタイルで、すると他の家でも、競うようにタイルをはり始めました。

確かにタイルをはれば、防水効果もアップするでしょう……でも、ちょっと待ってください……この壁って、洪水が終わったら全部壊すんでしょう？

全く、タイ人は何を考えているのやら！　タイ人の妙な見栄張りを見て、私は爆笑してしまいました。

壁を造る職人にとって、現在バンコクはバブルとなっているようです。洪水で農業ができないから、出稼ぎ人夫もたくさん集まっているようで、工事は滞ることなく、順調に進んでいます。

いよいよ明日は、洪水が始まると言われている大潮です。チャオ

プラヤー川の水位が堤防の高さを越え、街に水があふれ出すと、政府が警戒を呼び掛けています。
一方、街の人々はというと、けっこうお祭り気分になっています。街角でおばさんたちが、今日はどこまで水が来たの？　あしたはどこまで来るかしら……などと、話に花を咲かせているのを見ると、何だかこっちにまでわくわく感が伝わってきます。

タイは現在、そんな、のんきに構えていられるような状況ではないと思うのですが……。
洪水が来れば、最初は感染症が心配されます。次は蚊による被害、デング熱にマラリア。しかもタイの洪水は、三日やそこらで引くような性質のものじゃありません。
地下鉄は全線止まり、入り口が閉じられています。
工業団地の深刻な被害に加えて、米は収穫直前の最悪なタイミングでした。経済的損失は計りしれません。

はたから見ると、こんな最悪な状況下だというのに、住民が落ち着いて見えるのは、タイ人は肝が据わっているし、洪水は逃げ場がないということもありますが、子供の時から洪水に慣れているという理由もあげられます。日本人が、地震に慣れているのと一緒です。
近所のおっちゃんは、「子供の時はもっとひどかった。俺の胸まで水がきたからなぁ」などと、偉そうに語っていました。
「胸まできたのは、あんたが子供だったからでしょ！」と、奥さんに突っ込まれましたが……。

とはいえ、今回の大洪水は、百年に一度の規模と言われています。近代都市になってからは、初めての大洪水です。
それでは、百年前はどうだったのかと考えると、ほとんど被害はなかったと推察できます。なぜなら、当時はほとんどの人が、伝統的な家屋に住んでいたからです。

タイの伝統家屋は、高床式で、木組みの広いテラスの上に家が建っています。地面から床までの高さは、1，8mから、2．5mぐらい。最低限、人が立てる高さが確保されています。

テラスは庭ぐらいの広さがあり、普段から家族団らんの場として使われていて、洪水時でも快適に過ごせたでしょう。

高床には、洪水対策の他に、暑さによる湿気対策、泥棒、害虫、害獣よけの効果もあります。イノシシの他に、昔は野生のトラがいたので、高床であることがより重要でした。

さらにチャオプラヤー川の川沿いでは、人々は舟の上に家を建てて住んでいました。舟を家の基礎とする伝統家屋、ルアンターと呼ばれていて、直訳するとルアンは家、ターはいかだ。いかだ式住宅という意味です。

普段から川に浮いているから、水位の影響は全く受けません。

エジプトと同じく、繰り返される洪水によって、タイは農業に適した肥沃な大地を得てきました。したがって洪水被害は、近代文明の弊害であるとも言えるでしょう。

ところで、私は今日も、仕事の打ち合わせに行ってきました。でも今日は、仕事の話はほとんどせず、洪水の話題で終始しました。相手から、洪水が来たらどうしたらいいでしょうかと、相談されてしまいましたが、こっちが聞きたいぐらいです。

私は現在、仕事を三つ抱えています。それが全部、洪水が来るまでに終わらせてくださいと言われました。

そんなの、どう考えたって無理。私としても、無茶な要求に付き合うつもりはありません。逃げたくなったら逃げます。

正直言って、飛行機が水につかっている映像を見て、気が抜けて

しまいました。

私が住んでいるマンションでは、住人の多くがパタヤに避難しました。パタヤは、バンコクから一番近い海浜リゾートで、今はすごいことになっています。バンコクから逃げてきた人で、どこのホテルも満室。街は人でごった返しているそうです。

おかげで、マンションはひっそり……と思いきや、事実は全く逆！もともとうちのマンションは空き室が多かったのですが、そこへ市内の低い土地に住んでいる人たちが、押しかけてきたのです。

意外や意外、洪水を前に、なんとマンションは、ほぼ満室となってしまいました。

私の今後についてですが、洪水がきて、交通機関が麻痺し、インフラもだめになり、仕事ができなくなったら、もはやバンコクにいる意味がなくなります。

もし、その時点でバスが動いていたら、カンボジアのカジノに行こうかなと考えていました。国境の街ポイペットの、あるカジノのＶＩＰ会員になっているから、いつでも簡単にホテルを予約することができます。

道は水没しているけれど、かなり迂回すれば行けるはずです。

でも、バンコク全域が水につかったら、水が引いて都市機能を回復するまで、二か月はかかるとみられています。そんなに長くカジノに滞在するわけにはいきません。一か月もいれば、間違いなく破産です。

行けばただではすまない、やらずにすむわけがありません。

賭けごとは勝ったり負けたりを繰り返し、結局最後は損をするようにできている。勝つことを前提にはできない。それが賭けごとの鉄則です。だからやるならば、せいぜい二、三日がいいところ。

もう一か所、避難先として考えているのが、マレーシアのペナン島！　南海の楽園です。

観光地は一応ありますが、名だたる名所旧跡はありません。しかし、昔ながらの街並みがきれいに残っていて、街の雰囲気がとてもいい。住民はほとんどが華僑で、古い中華風タウンハウスをいまだに使い続けています。

飯はうまいし、空気もいい、そして美しい海もあります。

読者のみなさんにもお勧めします。ぜひ一度、素晴らしき南国リゾートを体験してみてください。狭い日本に閉じこもって、くよくよ悩んでいたことが、バカらしくなりますよ！

ペナン島には、私の親しい知人が住んでいて、行けば泊めてくれます。しかも知人は、これ幸いとばかりに、おいでおいでと私を誘っています。（それが、うっとうしいんですが……）

なにより素晴らしいことに、そこにはカジノがないんです！

最近、我が人生における最高の楽しみがギャンブルになってしまっているので、ちょっとヤバいんです。むしろ、洪水で閉じ込められていた方がマシかもしれません。

実は今、見積もりを出している仕事があり、その仕事は金額が大きいので、もしも見積もりが通ったら、洪水がきてもバンコクから出られなくなるかもしれません。

夕食後、うちに帰ってきてテレビを見ていたら、洪水で泥棒が増えているというニュースをやっていました。住民が避難した村では空き巣が横行し、商店なども軒並み被害を受けているようです。

ルパンもどきの怪盗も現れました。

洪水が迫ってから、陸橋や高速道路の路肩に車を駐車する車が続出しました。今ではぎっしり隙間なく止まっていて、さながら洪水

の避難場所と化してしまい、交通渋滞の原因となっています。
あまりの数の多さに、警察も取り締まりをあきらめて放置している状態です。

すでに冠水した地域では、こうして陸橋の上に駐車したおかげで、水没をまぬがれた車があるのですが、その中からベンツなどの高級車ばかりが、忽然と消えてしまったというのです。

陸橋の周りは水浸しですから、もちろん車で自走して移動することはできません。クレーンで運ぶにしても、周囲は川ではありませんから、大きな船が航行できるとも思えません。
いったいどんな方法で車を盗み出したのか、全く想像がつかないと、レポーターも首をかしげていました。

夜の八時頃から、雨が降り始めました。ものすごい暴風雨で、雨というよりは嵐です。
とうとう停電までしました。タイでは、よく大雨で浸水してトランスが爆発します。
雨は二時間ほどでやみ、停電もほどなく復旧しましたが、雨がかなりの量降ったので、明日の洪水にさらに拍車がかかるでしょう。

九時五十分のニュース速報で、アヌサワリー（戦勝記念塔）から十キロの地点まで水がきたと、報じられました。
私の手元には、百年前にアヌサワリーで撮られた洪水の写真があります。百年前ですから、周囲の歩道橋がないし、背後に建物も写っていません。
私は、この古い写真と同じ場所から、今回の洪水を撮ってやろうともくろんでいます。今日は、長靴も買ってきました。

いよいよ明日です！

あしたは、カメラを持って、アヌサワリーまで行ってきます。
次の章で、どんな報告をできるか、私自身楽しみです。
不謹慎ながら、なんだか私もわくわくしてきました。

……続く。

第六章　時が止まった街（十月二十九日、土曜日発）

今朝は、電話で目が覚めました。
ベランダから強烈な日差しが射し込んでいる。今日も暑い一日の始まりです。

テレビをつけると、ファランボーン駅周辺が洪水になりますと注意を呼び掛けていました。
バンコクの終着駅は、とうの昔に機能を停止している。いつからだろう？
交通機関として、列車を利用する機会がほとんどない私は、今まで気にかけたことすらなかった。
タイでは日本と違って、鉄道はどちらかというと、マイナーな交通機関に属します。したがって、ファランボーンを日本の駅で例えるのは難しいのですが、強いて挙げれば、五十年前の上野駅に雰囲気が近い。

私は、予告通りアヌサワリーに行くため、カメラを持って家を出ました。
途中、アヒルの肉入りそばが名物の店があったので、そこで朝食をすませました。もちろん味は保証済み。だけど、そわそわして味わって食べる余裕はありませんでした。

いよいよ、エジプトのオベリスクのように高く聳え立つ、戦勝記念塔が見えてきました。
塔の周りは右回りのロータリーになっていて、普段は車であふれ返っているのに、ここも閑散としています。ひとけもない。ところが、水が迫っている気配は全くありませんでした。

私は、塔を半周する歩道橋に上り、はしからはしまで歩きました。やはり、洪水のこの字も見えません。

私は、少々拍子抜けして自宅に戻り、パソコンをつけました。バンコクの街中には、至る所に監視カメラが設置されていて、交通状況などを把握するため、誰でもネットで見れるようになっている。画像はリアルタイムで、少しずつ更新されます。

アヌサワリーも、ビクトリーモニュメントという表示でアップされています。画像を見ると、アヌサワリーどころか、ファランボーン駅も乾いていました。

サイトでは、都内の相当数の場所が映し出されているけれど、あきらかに洪水がきているのは三か所ぐらいしかない。車が水をはねかしながら走っているのが見える場所もありますが、どこもうちからは遠く離れていました。

私はなんだかモヤモヤして、仕事を始める気分になれなくて、部屋の掃除を始めました。そして終わり間際になって、今日はメイドが来る日だったことを思い出しました。

メイドは二日に一度来て、掃除、洗濯、アイロンがけ、バス、トイレ掃除までしてくれるので、とても助かっています。マンションに付属しているメイドなので、料金は家賃に含まれています。

信じられないかもしれませんが、家賃は日本円に換算すると、総額で二万五千円ぐらいです！

ちなみに、タイ語で家政婦のことをメーバーンと言いますが、メーは母親、バーンは家という意味で、英語のハウスメイドとは関係ありません。

いつもの若い女の子がきて、掃除をしながら、「なぜかしら、今

日は楽だわ」とつぶやきました。（当然です、掃除は私がもうすませてしまったんですから……）

誤解を避けるために言っておきますが、メイドと言ってもあのフアンシーなフリルの付いたメイド服を着ている、アキバ系ではありません。容姿年齢とおよそ似つかわしくない、さえないユニフォームを着せられて、額に汗して一生懸命働いているのです。

日本のチャラチャラした同世代のギャルと比べると、けなげで切なくて、家で二人きりでいても変な気など起こりませんが、友達感覚で会話が弾むことはあります。

この日は、掃除が早く終わったので、「君の、そのダサいユニフォームとは大違いだろう」と話しかけて、アキバに行った時にメイド喫茶で撮った写真を見せたら、「日本のメイドって、こんなに可愛いの！」と、感動して見とれていました。

メイドが帰り、仕事をしていたら、昼ごろタイ人の友達から電話がかかってきました。

「じゃあ、一緒にお昼食べようよ」ということになって、近くのセンターワンというデパートに行きました。

食堂で昼食を食べた後、デパートの上から周りを見渡しましたが、洪水が迫っている気配は全く感じられません。

本当は、帰って仕事をするべきだったのに、そのままサテンに行って、友達とダラダラ話しこんでしまいました。

話題は当然、洪水関係が中心でしたが、洪水に対して友達が語った言葉は、ただ一言、「もう飽きた」これに尽きました。

おいおい、まだ洪水が来る前だというのに、飽きたってどういうこと？

そう思われるのは当然です。でもこの一言が、まさに、飽きっぽ

いタイ人の現在の心境を代弁しているのです。
「来るなら来る、来ないなら来ないで、はっきりしてほしい。こういう閉塞した状況が一番耐えられない」彼は、そう語っていました。
（冷静に考えれば、来ないのがなにより一番だと思うんですけど……）

昼食から帰ってきたのが二時ごろ、再び私はパソコンに向かって、仕事にとりかかりました。
四時ごろ、どんどん暑さが増してきて、耐えられなくなってきたので、エアコンをつけようとしましたが、元々私はクーラーが苦手なので、それよりもプールに行こうと思いなおしました。

私が住んでいるマンションは、四階部分にテラスがあって、プールが付いています。このマンションに決めた理由の一つがプールですが、バンコクでプール付きマンションというのは、さほど珍しくないです。
長さは十五メートルほど、大きくはありませんが、プールサイドに庭があり、パーラーがあって、デッキチェアでくつろぐこともできます。
もちろん、着替えのロッカールームとシャワーも完備しています。お腹がすいたら、直通電話でマンションの一階にあるレストランに注文すれば、料理でもコーヒーでも持ってきてくれます。
夜は水中が美しくライトアップされるので、ムード満点です。

私がこのマンションに越してきた当初は、なんて贅沢なんだろうとびっくりして、プールサイドで仕事をしたり、食事をしたり、ハリウッドスター気取りで、すっかり入り浸ってしまいました。
また、プールはマンション住人の社交場になっていて、知り合いも大勢できました。住人はファラン（タイでは、特に白人系の西洋人をこう呼びます）が多く、会話はもっぱら英語が中心ですが、日

本人もいます。

もちろん、プールの使用料も家賃に含まれています。家賃も、プールも、メイドも、全部ひっくるめて二万五千円！

タイでは、インフラの遅れに目をつぶれば、日本では考えられないような贅沢な暮しができるのです。

この日も、住人どうし仲良く語らいながらひと泳ぎしましたが、洪水が迫っているこの状況下で、プールで泳ぐ自分の姿を思い浮かべたら、なんとなく矛盾と後ろめたさを感じてしまいました。

泳いで帰ってきたら、小腹がすいたことに気づき、今度はセンチュリーというデパートに行って、一個十バーツ（約三十円）のチョコパンを買いました。

そして、洪水で閉じ込められた時の暇つぶしように、映画のＤＶＤ二枚と、マンガ本を買いました。

映画は、一枚は以前から見たいと思っていた有名なタイ映画。日本語でタイトルをつければ『ＢＴＳ恋物語』といった感じかな。もう一枚は、アニメ『鋼の錬金術師』です。

マンガは、ワンピースとガンツ。

タイではコミックと言えば、ほぼ日本のマンガ本のことを指します。コミック専門店がそこら中にあり、ほとんどが海賊版ですが、少女マンガからオタク系まで、日本と変わらないぐらい豊富な品揃えです。

値段は、一冊四十五バーツ（約百三十円）。日本人の感覚だと激安ですが、一食二十五バーツ（現在は洪水の影響で三十バーツに値上がりしていますが）くらいで外食できるタイの感覚からすると、必ずしも安いとは言えません。

おまけに、海賊版だけあって紙質が悪く、印刷も粗悪なので、細かい線はつぶれています。
もちろん文字はタイ語ですし、横文字に合わせて逆焼きされているので、ページが日本とは逆になっています。つまり、キャラクターがみんな左利きになってしまっているのです。

発売順序もめちゃくちゃで、ガンツは最初に二巻が出て、三、四、五巻まで出たら、いきなり十九巻に飛び、二十、二十一、二十二と出て、今日は六巻が出ていました。
ガンツは映画もアニメも見ましたが、やはりマンガが一番ですね。
ワンピースはだいぶ前に発売されたので、ちゃんと一巻から揃えています。

帰りにスーパーマーケットに寄ったら、韓国製のインスタントラーメンが山積みになっていたので驚きました。
インスタントラーメンを目にしたのは久しぶりだったので、思わず手を伸ばしましたが、辺りを見回すと、どこの棚もからっぽになっているというのに、このラーメンに限って見向きもされていません。
どうやら、同じ激辛好きの民族であっても、韓国の激辛ラーメンは、タイ人の口には合わないようです。結局私も、棚に戻してしまいました。

私の大好物のお菓子、セレクト塩海苔を探しましたが、相変わらずスーパーにもコンビニにも、影も形もありません。そもそも菓子類は、比較的早い段階で棚から姿を消しました。
ちなみにセレクト塩海苔は、日本語に直訳したわけではありません。タイ語読みで、『セレクトシオノリ』という名称なのです。
これは、海苔をカラッと揚げて塩をまぶしたポリポリ食べるスナック菓子で、お菓子というより味付け海苔に近いかな。ちょっと塩

けが強いけど、私の一番のお気に入りです。
タイでは大人気商品で、ピリ辛から激辛まで、味は五種類ぐらいあります。たぶん、日本で発売しても売れると思いますよ。

他にも、『ケンドウ』という名の海苔のお菓子があり、これもいけます。パッケージには、侍の絵が描いてあります。
タイ語で海苔を指す、サーライという名詞がありますが、タイ人の中には海苔のことを『ノリ』と呼んで、日本通ぶる人もいます。

夜、近所の安食堂で夕食をすませて、いつものオープンカフェに行ったら、猫のかわりに、友達のタイ人の女の子がいました。
プルーンのシャーベットを食べながら、彼女とちょっと話しをしました。
「洪水はいつ来るんだろうね？」
「オンヌットまできたそうよ」
「あしたはどこまで来るかな？」

彼女は、けだるそうに微笑んで言いました。
「もうこの話、飽きた」

……続く。

第七章　完結篇（十一月十日発）

私はテレビで、洪水の被災者の様子を伝える番組を見ていました。
避難所となっているテント村で、レポーターが被災者にマイクを向けて問いかけました。
「ここに避難してきて、なにか楽しかったことはありますか？」

私は、一瞬自分の耳を疑いました。
え、今、なんて言った？　聞き違いか？
ところが、インタビューを受けている被災者は、全く動じることなく、ニコニコ顔で答えました。
「みんなで共同作業をやって、一体感が生まれました」

レポーターが、今度は別の人にマイクを向けました。
「ここに来て、楽しかったことはありますか？」
彼もまた、うれしそうに微笑んで答えました。
「友達がいっぱいできました」

レポーターの質問がおかしい！
変？
そもそもここにいる人たちは、みんな悲惨なはず。家はダメになるし、いつ帰れるかわからない。そして、不自由な避難所生活を強いられている。
日本であれば、「なにか困っていることはありませんか？」とか、「不足している物はありませんか？」といった風に聞くのが普通だろう。それを「楽しかったことは？」などと聞かれたら、被災者は怒ってしまうに違いない。
聞く方も聞く方だけど、答える方も答える方だ。しかも笑顔で……。

悲惨な状況の中でも、気丈に振舞っていて、日本人とは全く違う。

いったいどこまでポジティブシンキングなんだよ、タイ人は！

例によって私は、あきれるやら感心するやら……。

三日には、とうとう恐れていた事件が起こりました。二十九才の男性がワニに噛まれ、百針も縫うケガをしたのです。

タイでは見世物だけでなく、革製品を作るためにワニを養殖しています。養殖のワニなら、ワシントン条約の規制を受けないからです。逃げ出したワニの数が異常に多いのはそのせいです。

実はタイでは、十年程前にも洪水でワニが逃げ出したことがあり、その時には住民が一人食い殺されたので、ワニの恐怖はかなり切迫しています。

オマケに、今回人が襲われたのは、バンコクに近い場所でした。民家に入ろうとしている巨大なワニとか、家の玄関でひなたぼっこをしているワニといった衝撃の写真も撮られていて、住民のワニの恐怖は最高潮に達しています。

そのため、ワニを捜索する番組がたくさん放送されました。その内の一つは、だいたいこんな内容でした……。

ワニは夜行性だからと、ワニが目撃された場所にわざわざ夜中に出向いて、レポーターが「恐いですね、恐いですね」とつぶやきながら、現場を捜索します。

ガサガサと音がすると、「あっちだ！」とか叫んで、スタッフがいっせいに走り出し、同行した猟師が、暗闇に向けていきなり銃をぶっ放しました。

危ない！　そこはジャングルではありません、洪水に襲われた住宅街です。人に当たったらどうする気だ！　見ていてハラハラしました。

結局、ワニが本当にそこにいたのかどうかも、わからずじまいでした。

さらにテレビ番組関係では、スターのお宅訪問が増えました。
これは、バンコク市内に住んでいるスターの豪邸を訪問して、どんな洪水対策をしているかレポートする特集です。
どの豪邸も土嚢を積み上げ、窓は木で塞いだ上にシリコンで目張りして、防水対策はバッチリでした。脱出用の舟も、二艘ぐらい用意してありました。

テレビを見ていると、頻繁に政府の広報ＣＭが流れるので、もう耳について離れなくなってしまいました。
以前にも書いた、洪水の応援ソングが流れて、直訳すると、『タイ人はタイ人を見捨てない』というようなナレーションが入る。要するに、みんな助け合いましょうということを言っている。
そのＣＭが、定期的に繰り返し、繰り返し流れるので、ああ、またかとうんざりします。
日本でも、震災の時に似たようなＣＭがあったそうですね。

四日には、我が家から十キロほど離れた場所にある、友人の家が冠水しました。
彼とは、前日の夜に電話で「本当に来るのかなー」とか、「もう来ないんじゃないの」とか、他人事のようにのんきに話していたのですが、その日の彼は、興奮状態で電話をかけてきました。
「つ、続さん、まいりました！　もうめちゃくちゃですよ！」
足元に水が来て、尻に火がついたのです。

彼は日本人で、日系企業に勤めています。彼の話では、彼のアパートも、勤め先も冠水してしまったそうで、会社は急遽パタヤに移転することになり、彼は丸一日、引越し作業に追われたということ

でした。
彼の部屋はアパートの三階にあるので、実質的な被害はないけれど、やはり建物が冠水すると不便で、とても生活できる状態ではないそうです。幸いネットでパタヤのホテルを予約することができたので、彼もパタヤに避難することになりました。
「いやー、疲れました……」
彼は、げんなりした調子でぼやきました。
私も彼の話を聞いて、他人事ではないとぞっとしました。

パタヤ（バンコク近くのリゾート）は例年十一月からオンシーズンとなり、ただでさえ値段が上がるのですが、今年はそれに洪水による便乗値上げが加わり、物価がとんでもないことになっているそうです。
バンコクで干された風俗嬢もパタヤに移動し、歓楽街はかなり賑わっているようです。

ところで、我が家の洪水被害についてですが、うちの近所にはまだ来ていません。というか、ほぼ来る可能性がなくなりました。政府の排水作業と、土嚢を積んだ洪水対策がうまく機能したようです。
犬も猫も、今月早々に戻ってきました。
オープンカフェに行ったら、いつものように灰色猫が挨拶に現れました。「お前、今までどこに行ってたんだよ？」
お菓子の棚はまだスカスカですが、水や生鮮食品は戻ってきて、食堂の野菜も復活しました。
読者のみなさんには申し訳ないけれど、私にとっては大団円です。

結局、今、困っているのは、床屋に行けないことぐらいです。
先日床屋に行ったら満員で、待合席に人があふれていたのでびっくりしました。その床屋があんなに込んでいるのを見たのは初めてです。

店長に「ごめん、あした来てよ」と言われ、翌日行ったらまた満員で、結局散髪はあきらめました。

洪水は、バンコク中心街には来なかったけれど、周りはすっぽり水に囲まれ、まるで孤島のようになっています。そのため、残されたわずかな陸地を求めて、人が殺到してきたのです。

デパートにはいつも以上に人があふれ、道路に大渋滞が戻ってきました。

今月の初め頃は、街から車と人が消え、空気が素晴らしく澄んで、タクシーで信じられない速さで都内を移動できたことが夢のようです。

床屋の店長は、特需だと喜んでいました。

トンブリから逃げて来た日本人の知人と話しましたが、彼は悲惨な目に遭っていました。持ち家の自宅が冠水して、今は避難所暮らし。その日は用事があって、バンコクに出てきたそうです。

タイ人の奥さんが、猫を十匹ぐらい飼っていたのが、洪水で散り散りになってしまったそうで、自分はけっこうな年なのに、不便な避難所暮らしでは体調管理もできない。この辺は水がなくて、天国だねーとしみじみ語っていました。

それを聞いて、改めて自分は恵まれているなと実感した次第です。

本日、十一月十日は、ロイクラトーン、タイの灯篭流しのお祭りの日です。

私も、タイ人のガールフレンドと流しに行ってきました。

タイの灯篭流しは、盛大で、とても幻想的なんですよ。特に恋人たちにとっては、大切なイベントです。

でも、今年は洪水のため、川や運河で流すことは禁止されました。増水して危険だし、ゴミを増やすことになるからです。しかし公園の池などで流すのは、例年通り許可されました。

私も、今年は近所の公園の池で流しました。

タイの灯篭は、ハスの花を模した美しい形をしていて、基本的にバナナの幹から作られます。周囲に色々な飾りをつけ、大きさは大小様々、縁起物で、ちょうど日本で熊手を買うような感覚です。

普通の大きさで五十バーツ（約百五十円）。大きいものになると、数千バーツもして、流してしまうのがもったいないくらいりっぱで見事です。これは主に、会社や商店などが購入して流します。

夕暮れになってから、みんなで灯篭を持ち寄って、蝋燭に火を灯して流します。川や池に、無数の灯篭が漂う様は幻想的で、よくタイの観光ガイドの表紙にも使われます。

灯篭を流すのは、水の神に感謝を捧げるためで、日本の灯篭流しとは意味が違います。

またカップルが二人で流した場合、その灯篭が見えなくなるまで沈まないで流れて行くと、その恋は成就すると言われています。実際の話、たいてい沈んでしまうんですけれどね……。

川に流す灯篭の他に、熱気球の原理で空に飛ばす灯篭もあります。油を浸した布のボールに火をつけ、袋状の灯篭の中に入れて飛ばす物で、これが一度に何十個もバーッと飛んで行く様は、流し灯篭よりもさらに幻想的できれいです。

ここで、みなさんは疑問に思うかも知れません。火のついた灯篭を打ち上げて、危なくないのだろうかと？

ご心配には及びません。見えなくなるまで飛んで行った灯篭は、じょじょに浮力をなくし、運悪く木造家屋に着地すれば着火します。こうして毎年、ロイクラトーン恒例の火事が起こるのです。

こんな物を都市部であげること自体が間違っています。さすがに政府も、公園などであげることを禁止しましたが、違反者は後をた

ちません。
そもそも王宮前の広場で、毎年大々的にあげているのですから、禁止しても意味がありません。

公園からの帰り道、チャオプラヤー川に人が大勢集まっているという噂を聞きました。危険だから、川には絶対近づかないようにと、政府から警告が出ていたはず。
私たちは、川がいったいどうなっているのかという好奇心にかられ、自己責任覚悟で、行ってみることにしました。

川は、いつもの穏やかでまったりした表情とは、全く別の顔を見せていました。あふれんばかりに増水して、渦を巻いて流れていました。
警告が出ているにもかかわらず、川岸には例年と同じくらい大勢の人が押しかけていました。やっぱり灯篭は川に流さなくちゃという、こだわり派が多いのでしょう。

毎年ロイクラトーンには、お金を払うと川に灯篭を流してくれる流し屋が現れます。わざわざ岸から離れたところまで泳いで行って、灯篭を流してくれるのですが、さすがに今年は泳いでいる流し屋は一人もいませんでした。
その代わり、橋の上や桟橋からザルで吊り下げて流していました。でも、ただでさえ沈みやすい灯篭を激流に浮かべれば、どんな結果になるか、みなさん容易に想像がつくでしょう。それでも流す人が引きも切らずで、意地でも川に流したいというこだわり派の多さにちょっとあきれました。

川岸では、盛んに花火を打ちあげていました。しかし、私は水面に映る花火の美しさを心から楽しむことはできませんでした。間近で聞く破裂音が銃声に聞こえて、トラウマのように、あの赤シャツ

騒動のことを思い出してしまったからです。

タイの闇の部分を語る上で、私には忘れられないテレビニュースの記憶があります。

実は近年、政権が不安定なタイでは、クーデター騒動は日常茶飯事で、三年に一度ぐらいの頻度で起こってきました。

十年ほど前に起きたクーデター騒ぎの時には、反政府側の人々が七百人も行方不明になり、政府に拉致されて全員虐殺されたんじゃないかと噂になりました。しかし真相は藪の中、結局行方はわからずじまいでした。

それが数年前、海底からコンテナが浮き上がり、大騒動が起こりました。コンテナは重しを付けて沈めてあったのが、大嵐の影響で浮き上がったらしいという話でした。

コンテナの中には、人間の白骨がゴロゴロ入っていたという噂が流れました。その数、約七百体だとか……。

クーデターの行方不明者の遺族が、これについて徹底的に追及すると発表すると、突然翌日、時の首相アビシットが緊急記者会見を開き、白い珊瑚を持ってテレビに登場しました。彼の弁では、白骨だと噂が流れているが、すべて珊瑚だったと言うのです。

それっきりこのニュースは黙殺され、全く語られることはありません。私はこの一連の報道を見て、タイの闇の深さを垣間見ました。そして私自身が、その闇に呑み込まれる状況に陥ったのです。

私が現実に体験した出来事を、実際に見聞きしたことを、何らかの形で残しておきたいと思い続けてきたので、このエッセイとは別に、新たに『チャオプラヤー川の夕日』というタイトルで連載を始めることにしました。

今度は文体や雰囲気もガラっと変えて、タイ情報や文化、国民性

についても、よりディープに書いてみようと考えています。

赤シャツの乱は過去の事件ですが、同時に現在進行形の出来事でもあります。タイの現在の首相インラックは、赤シャツの主役、タクシンの妹です。

つまり、いまだに火種がくすぶっていて、いつ再燃するかわからない状況が続いているのです。もしそうなったら私は、今度は迷うことなくタイを脱出します。もう二度と、あんな体験をしたくありませんから！

どうかみなさん、本作で懲りずに、ぜひチャオプラヤー川の夕日もお付き合いください。

……チャオプラヤー川の夕日に続く。

『チャオプラヤー川の夕日』……特別予告編！

大方の予想に反して、日増しに赤シャツデモ隊と軍隊の衝突は激しくなっていった。戦闘地域では、もはや市街戦と言えるほど過激な撃ち合いを繰り返している。

午後二時頃、私は自宅から二百メートルほどの場所にある、セブンイレブンに向かった。そのセブンイレブンは、ラングナーム通りに面した角にあり、危険を感じたのか、入り口だけ開けて窓は全部シャッターを降ろしていた。

そういえば、真っ昼間だというのに、通りにあるほとんどの店がシャッターを閉めている。そのせいか、街全体が異様な雰囲気に包まれていた。

店に入ると、棚がスカスカになっていた。ほとんどの商品が売り切れている。しかし、なんとか当座の食料を確保することができた。

効きすぎるぐらい冷房の効いたコンビニから出ると、あまりの暑さにクラッとした。そして、歩道に足を下ろそうとした時、陽炎立つアスファルトの通りに走り込んで来る兵士の一団を、蜃気楼のように私は見た。

Ｍ１６を水平に構えて、近づいてくる。軍の一個小隊が、何でこんなところに……そう思った瞬間だった！

兵士とは反対の方角から、パンパンパンパーンと銃声が聞こえた！

いや、聞こえたなんてもんじゃない！　ビューンというアスファルトに当たった弾が跳ね返る音が轟き、耳がキーンとなった。銃弾が、私の目と鼻の先をかすめたのだ！

間髪を入れず、兵士も応戦した。

ヤバイ！　私は反射的に物陰に身を寄せ、片膝と両手を地面につ

いた。しゃがみ込んで、あたりの様子をうかがう。オレンジ色のタイル張りの床が、焼けるように熱い。

兵士が背を低くして、ダーッと走ってきた。

周りにいた人たちもびっくりして、慌てて物陰に隠れた。私もますます背を低くして、最後は地面に伏せるような姿勢をとった。

恐怖の中、私はバカバカしいほど冷静に、自分を客観視していた。

こんなところで、俺はいったい何をしてるんだろう？　タイくんだりまで、なんのために来たんだろう？

日本にいれば、今頃家族に囲まれて、平和な日常生活を送っていたはず。心配事といえば、いつリストラされるかとか、健診でガンが見つかるんじゃないかとか、そんな他愛もない悩みで、銃で撃たれるかもしれないという死の恐怖は、映画やゲームの中の出来事でしか有り得ない。

『日本は、平和だったな～』

ゴキブリのように這いつくばりながら、今の状況がまるで他人事であるかのように、私は日本をなつかしんでいた。

微笑みの国、タイ。

癒しの街、バンコク。

それが一転、銃撃と惨劇の街に！

常夏の楽園が、いったいなぜこんなことになってしまったのだろう？

最初は誰もが楽観視していた。

日本人カメラマンが銃撃された、あの日までは……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7326x/

タイ大洪水

2011年11月27日03時06分発行